

OKAMURA REPORT

第88期 中間報告書 2022年4月1日 ▶ 2022年9月30日 | 証券コード：7994



okamura

オカムラのミッション

豊かな発想と確かな品質で、
人が活きる環境づくりを通して、
社会に貢献する。

代表取締役 社長執行役員 **中村 雅行**



株主の皆様におかれましては、日頃より当社への格別のご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

株式会社オカムラは、「豊かな発想と確かな品質で、人が活きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとし、トータルソリューション企業への変革とグローバル化の推進を図るとともに、企業価値のさらなる向上と社会課題の解

決を目指しております。

ミッションを実現していくために、「人が活きる環境の創造」「従業員の働きがいの追求」「地球環境への取り組み」「責任ある企業活動」の4つの観点からサステナビリティ重点課題を特定し、取り組みを推進しております。

「労働人口の継続的な減少」「働き方改革の普及」「デジ

タル技術の進展」など社会環境が変化する中、5年後の目標を設定しそれを達成するため、2021年3月期から2023年3月期までの3カ年を対象とする中期経営計画を策定しております。社会や市場のニーズの変化を先取りした製品・サービスの開発や新たな事業モデルの構築を促進・実現するとともに、これまでのオペレーションの仕組みをこれからの変化に対応しうるものとするために構造変革を進めております。

これからも、社会に貢献するとともに持続的な企業価値の向上に努め、社会から信頼されるリーディングカンパニーを目指します。

当第2四半期の概況について

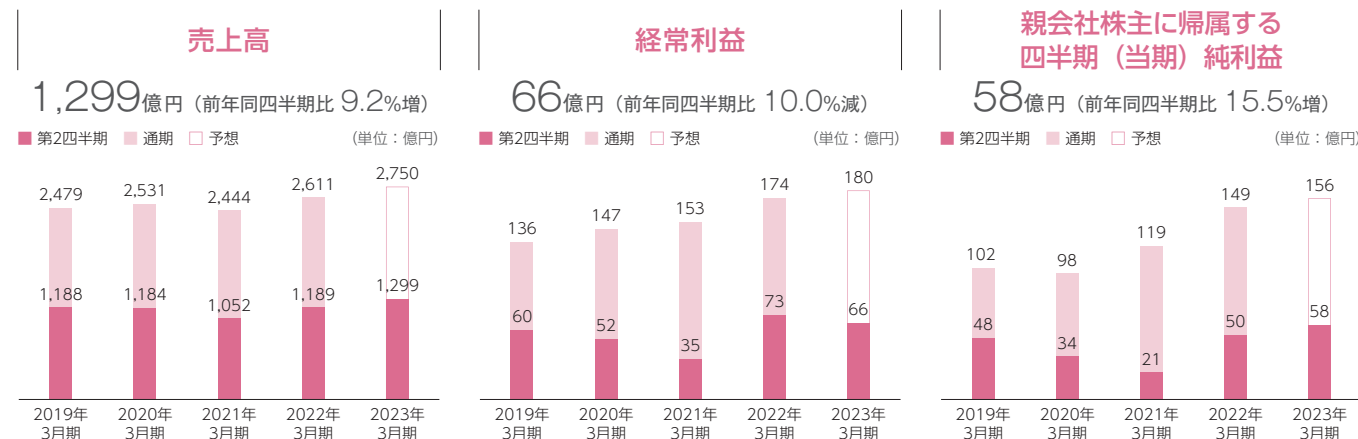
当第2四半期連結累計期間の国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、ワクチン接種の普及や各種施策

により経済活動は回復傾向が見られました。しかしながら、ウクライナ情勢を巡る地政学的リスク、諸資材・部品の価格高騰、さらには新たな変異株による新型コロナウイルスの感染再拡大など、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

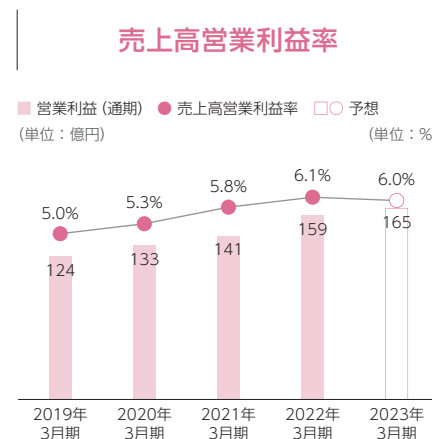
このような状況のもと、当社グループは、「豊かな発想と確かな品質で、人が活きる環境づくりを通して、社会に貢献する。」をミッションとし、顧客のニーズを的確に捉えたクオリティの高い製品とサービスを社会に提供することで、企業価値の向上に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高129,922百万円（前年同四半期比9.2%増）、営業利益5,411百万円（前年同四半期比17.4%減）、経常利益6,615百万円（前年同四半期比10.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益5,842百万円（前年同四半期比15.5%増）となりました。

第88期第2四半期決算ハイライト（連結）



（注）記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。



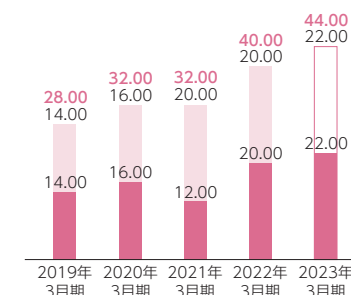
配当金についての基本方針

当社は、株主の皆様への適切な利益還元を経営の重要政策のひとつとして位置付けております。利益配当政策につきましては、業績に応じた適正な利益配分を目指すとともに、財務状況、将来の事業展開及び内部留保などを総合的に勘案し、安定配当の維持にも努めてまいりたいと考えております。

配当金

第88期中間 **22円**（年間44円）

単位：円 ■ 中間 ■ 期末 □ 予想



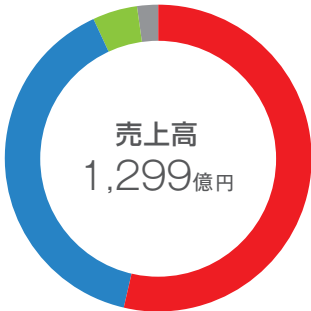


▶ より詳細な決算情報は、右記のQRコードよりアクセスいただき、当社IRトップページからご覧いただけます。

第88期 第2四半期決算のポイント

- オフィス環境事業は、オフィス機能見直しで、リニューアル需要が旺盛に推移し、過去最高売上も、資材価格上昇の影響を吸収しきれず減益。
- 商環境事業は、小売店舗の投資が旺盛、冷ケースをはじめ改装需要が堅調に推移し増収、過去最高売上も、資材価格上昇の影響を吸収しきれず減益。
- 物流システム事業は、コロナ禍における影響が順調に回復したことにより増収。資材価格の上昇などにより減益。

事業別ハイライト



	売上高構成比	売上高	営業利益
■ オフィス環境事業	53.8%	698億円	47億円
■ 商環境事業	39.3%	511億円	14億円
■ 物流システム事業	4.8%	62億円	△7億円
■ その他	2.1%	26億円	△0億円

(注) 記載金額は、億円未満を切り捨てて表示しております。

オフィス環境事業

Office Furniture

売上高構成比

53.8%



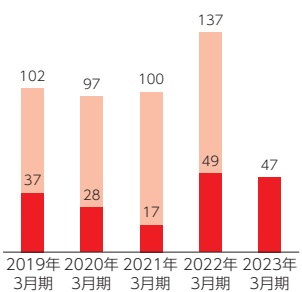
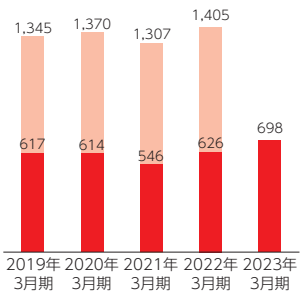
■ 第2四半期 ■ 通期

売上高

単位：億円

営業利益

単位：億円



オフィス環境事業につきましては、新しい働き方に対応したオフィスの構築が、業種・規模を問わず多くの企業にとって重要な経営課題となっており、全国でオフィスのリニューアル需要が活発に推移しました。このような状況のもと、当社は、顧客ニーズを捉えた提案営業と、それを支える働き方の変化を捉えた新製品の拡充により需要の取り込みに努めました。またDB&B社買収による海外売上の増加もあり、売上高は過去最高となりました。しかしながら、諸資材・部品の価格高騰により、利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、69,895百万円（前年同四半期比11.6%増）、セグメント利益は、4,771百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。

商環境事業

Store Displays

売上高構成比

39.3%



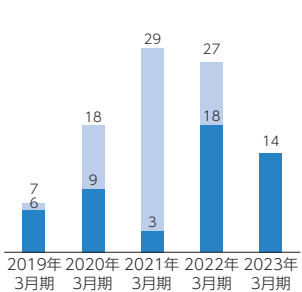
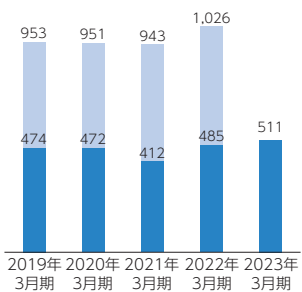
■ 第2四半期 ■ 通期

売上高

単位：億円

営業利益

単位：億円



商環境事業につきましては、当社の主要顧客であるスーパー、ドラッグストア等の小売業を中心に、改装需要が好調に推移いたしました。このような状況のもと、店舗什器、冷凍冷蔵ショーケースをはじめとした幅広い製品ラインナップと、店舗デザインや施工管理等を含む店舗づくりのトータルサポート体制による当社の総合力を活かした提案を展開し需要の取り込みに努めたことにより、売上高は、過去最高となりました。しかしながら、諸資材・部品の価格高騰により、利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、51,111百万円（前年同四半期比5.2%増）、セグメント利益は、1,459百万円（前年同四半期比23.2%減）となりました。

物流システム事業

Material Handling Systems

売上高構成比

4.8%



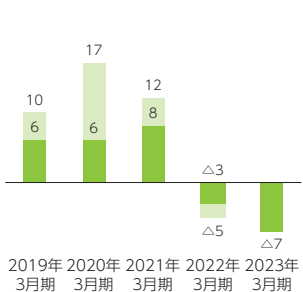
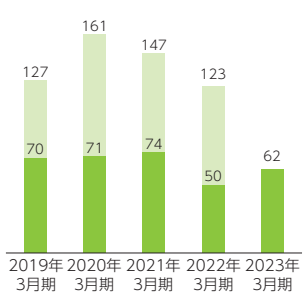
■ 第2四半期 ■ 通期

売上高

単位：億円

営業利益

単位：億円



物流システム事業につきましては、巣ごもり需要の拡大と人手不足を背景とした省人・省力化への要望は強く、大型物流施設を中心に自動倉庫の需要は高水準で推移しております。このような状況のもと、優位性のある製品の強みを最大限に活かした積極的な提案活動を展開してまいりました。足元での受注高は堅調に増加しており、前連結会計年度に比べ、売上高は増加いたしました。しかしながら、諸資材・部品の価格高騰により、利益は減少いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は、6,266百万円（前年同四半期23.6%増）、セグメント損失は、746百万円（前年同四半期は340百万円のセグメント損失）となりました。



- 書籍『エシカルワークスタイル 自分にも人にも優しい働き方を考えてみる』を出版
- オフィス製品3製品と独自開発のサステナブル素材が2022年「レッドドット・デザイン賞」を受賞
- オフィスシーティング「CYNARA（シナール）」とデザインテーブルシリーズ「nel（ネル）」が「iFデザインアワード2022」を受賞
- オフィスチェアなど22製品が環境認証「LEVEL認証」を国内オフィス家具メーカーで初めて取得
- Web会議用音声コミュニケーションツール「TALKHUB（トークハブ）」を発売



- 「ニューノーマルな働き方協創コミュニティ」活動レポートを公開



- ポータブルバッテリー「OC（オーシー）」がドイツ「UNIVERSAL DESIGN competition 2022」にて「UNIVERSAL DESIGN EXPERT」を受賞
- 北米最大の商業インテリアの展示会「NeoCon 2022」に出展
- オフィスシーティング「CYNARA（シナール）」が「HiP Awards 2022 at NeoCon」を受賞
- ビジネス誌『WORK MILL with Forbes JAPAN ISSUE 07』発行



- 「オカムラデザインスペースR 第18回企画展」開催
- 名古屋のラボオフィス「MENNOLU LABO（みのるらぼ）」をリニューアルオープン

表紙の写真について

名古屋のラボオフィス「MENNOLU LABO（みのるらぼ）」をリニューアル。「つながる」をコンセプトに、言葉を交わすことだけでなく、想いや目標の共有、地域や社会の課題を意識することなど、多様なコミュニケーションの形を実現します。



- 「第22回JAPANドラッグストアショー for ビジネス」出展
- 「スパイダーマン」をデザインモチーフにした特別モデルのチェアを発売
- 在宅ワーク向けファニチュア「Parabel（パラベル）」チェア、「Parabel」デスクの2製品がキッズデザイン賞を受賞



- 「JASIS2022」出展
- 「フードストア ソリューションズ フェア2022」出展
- 「メゾン・エ・オブジェ・パリ 2022年9月展」オフィシャル展示「ライト・トレンド 2022」に出展協力
- 物流施設でカゴ車の工程間搬送や整列配置の自動化を実現する自律移動ロボット「ORV（オーアールバイ）」を発売
- 「国際物流総合展2022 Logis-Tech Tokyo 2022」出展

Topics 01

北米最大の商業インテリアの展示会「NeoCon 2022」に出展

6月13日～15日にシカゴ（米国・イリノイ州）で開催された「NeoCon 2022」に出展しました。2020年11月に日本で発表・発売したオフィスシーティング「CYNARA（シナール）」を展示し、北米での販売を開始しました。「CYNARA」は、NeoCon発表製品の中から選定される、北米で最も有名なインテリア・建築専門誌のひとつINTERIOR DESIGN誌が主催する「HiP Awards 2022 at NeoCon」において、ワークプレイス：カンファレンスシーティング部門のWinnerを受賞しました。



Topics 02

「第22回JAPANドラッグストアショー for ビジネス」出展

8月19日～20日、東京ビッグサイトにて開催された「第22回JAPANドラッグストアショー for ビジネス」に出展しました。コロナ禍で3年ぶりのリアル開催となる今回はビジネス商談に特化した専用会場にブースを設け、陳列什器や冷凍冷蔵ショーケース、バックヤード什器など幅広い製品を展示しました。ドラッグストア・調剤薬局に向けた、利用しやすく働きやすいお店づくりのためのさまざまな提案を行いました。



Topics 03

自律移動ロボット「ORV（オーアールバイ）」を発売、「国際物流総合展2022 Logis-Tech Tokyo 2022」にて展示

物流施設においてカゴ車を使用した工程間搬送や整列配置の自動化を実現する自律移動ロボット「ORV（オーアールバイ）：Okamura Robot Vehicle」を2022年9月に発売しました。9月13日～16日に東京ビッグサイトで開催された「国際物流総合展2022 Logis-Tech Tokyo 2022」に出展し、「ORV」を展示。「イントラロジスティクスの解法～お客様の数だけ解決策を導き出す～」をテーマに、保管からピッキング、搬送システムを連動したデモンストレーションを行い、物流現場の課題解決に導くさまざまなソリューションを提案しました。



従業員がいきいきと働ける環境への取り組み

オカムラグループでは、多様な人財が活躍できる制度や仕組みづくりと職場改善に取り組むとともに、一人ひとりの従業員が意識を変え行動することによって、いきいきと働ける環境を追求しています。

男性育休の取得向上に向けて

育児中の男性従業員からの声や職場での課題を踏まえ、男性従業員の育児と仕事との両立支援を進めています。

2020年1月より配偶者出産休暇取得（配偶者が出産した日から1カ月の間に3日間取得）の義務化、働き方や休暇取得の希望について上司と共有し、本人も職場のメンバーも円滑に業務を行えるように備えておくことを目的とした子育て準備面談の2つの施策を実施しています。



はぐくむプロジェクト

改正育児・介護休業法への対応に向けて、2021年10月には、「こそだて支援プロジェクト（はぐくむプロジェクト）」を発足。育児に関するさまざまな情報交換やプロジェクトメンバーからの情報発信を目的とした社内チャネル「パパCafé」の運用を始めるなど、男性従業員が育児に参画しやすくなる風土の醸成を目的とした活動を行っています。

VOICE

第一子が産まれてから、約1カ月間の育児休職を取得しました。上司には予定日の約5カ月前より相談し、全面的に支援してもらいました。育児休職を取得して一番良かったことは、新生児期の育児の時間を夫婦一緒に経験できたことです。育児と仕事の両立の大変さをあらためて認識できました。

オフィス環境事業本部 営業本部
テレコム営業本部
柏原 勇志

持続可能な社会づくりを目指して

オカムラグループでは、「人が活きる環境の創造」「従業員の働きがいの追求」「地球環境への取り組み」「責任ある企業活動」の4つの観点からサステナビリティ重点課題を特定し、取り組みを推進しています。サステナビリティに関する取り組みについて、上半期のトピックスをご紹介します。

● サステナビリティ・リンク・ボンドの発行

カーボンニュートラル実現に向けた取り組みとして、あらかじめ定めたサステナビリティ目標を達成するか否かによって条件が変更するサステナビリティ・リンク・ボンドを発行しました。（2022年6月）

<https://ir.okamura.co.jp/library/sustainabilitylinkedbonds/>



● オカムラグループ気候変動情報開示（TCFDに基づく情報開示）を更新



https://www.okamura.co.jp/company/sustainability/report/pdf/2022/TCFD_open_220629.pdf



● SDGs研修inエヌエスオカムラ

オカムラグループの各事業におけるサステナビリティ推進に向けて、従業員一人ひとりの意識向上と行動変容が重要と捉え、従業員を対象にしたさまざまな教育研修・イベント、ワークショップ等を実施しています。

2022年8月26～27日に、「SDGs研修inエヌエスオカムラ」を実施しました。岩手県釜石市にあるオカムラグループのエヌエスオカムラを訪問し、工場見学や震災の記憶研修として被災した旧工場の見学や避難体験を行いました。漁業体験も行い、釜石の大自然を体感しました。SDGsというキーワードを通して、グループ会社との交流を深め、サステナビリティの視点を日々の業務に落とし込むヒントを探りました。



東日本大震災当時のエヌエスオカムラからの避難経路を歩く



漁船に乗って漁業体験

● 「オカムラグループ Sustainability Report 2022」を発行

オカムラグループのサステナビリティ推進に関する活動をステークホルダーの皆様にお伝えするため「オカムラグループ Sustainability Report 2022」を公開しました（2022年7月29日公開、報告期間 2021年4月～2022年3月）。



https://www.okamura.co.jp/company/sustainability/report/pdf/2022/okamura_SustainabilityReport_2022_all.pdf



- 「オカムラグループ人権方針」の制定
- 「腐敗行為防止方針」の制定
- 「オカムラグループ 情報セキュリティ方針」の制定

方針一覧

<https://www.okamura.co.jp/company/sustainability/policy/index.html>



- ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に選定（2022年4月）
- 「パートナーシップ構築宣言」を公表（2022年7月）

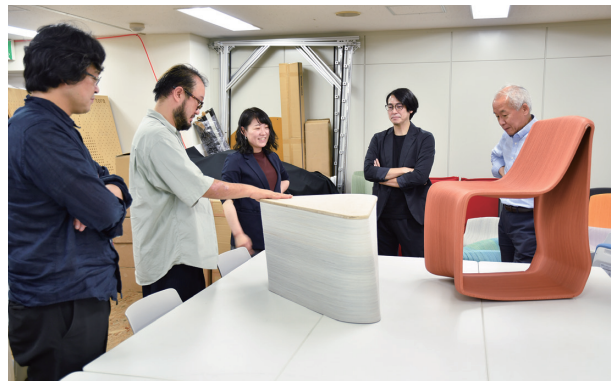
● オカムラグループの温室効果ガス排出削減目標が国際的なイニシアチブによるSBT認定を取得（2022年10月）



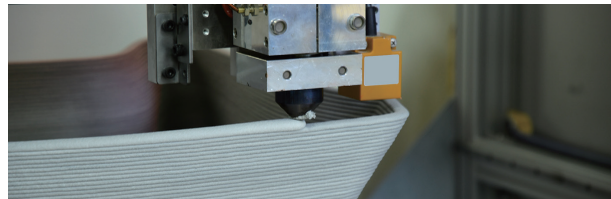
3Dプリンターと環境素材による環境に配慮したものづくり

オカムラは、慶應義塾大学SFC研究所ソーシャル・ファブリケーション・ラボ[※]と共同で、3Dプリンターで製作する環境素材のオフィス家具デザイン「Up-Ring」プロジェクトを進めてきました。このプロジェクトは、3Dプリンティング技術、バイオマスの単一材料などの技術利点を最大限生かすことを考えたデザインの研究開発を目的としています。

※ 国立研究開発法人科学技術振興機構センター・オブ・イノベーション（COI）プログラムの終了に伴い2022年3月末で解散・終了し、現在は「SFC研究所 環デザイン&デジタルマニュファクチャリング共創ラボ」が発足され、プロジェクトを継続しています。



3Dプリンターによる製品の生産は、製造時のむだな材料消費や電力の消費、騒音の発生を抑制でき、金型が不要なため生産準備段階での費用削減が可能です。また、単品でも効率的に生産を行うことが可能です。



3Dプリンターで製造の様子

材料となるバイオポリエチレンは、サトウキビを原料としています。サトウキビは生育過程でCO₂を吸収(固定)するため、石油化学系ポリエチレンに比べてCO₂発生量を70%削減し、地球温暖化の抑制に貢献します。



サトウキビ由来のバイオマスポリエチレンを使用



Up-Ringチェア

Okamura Live:)

オカムラを知る！脱炭素社会に向けた新生産システムへのチャレンジ「Up-Ring」プロジェクト
<https://live.okamura.co.jp/post/?id=31>



会社情報 (2022年9月30日現在) | Corporate Data

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	100,621,021株
株主数	7,212名

所有者別株式分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,772	11.00
オカムラグループ従業員持株会	5,892	6.02
明治安田生命保険相互会社	5,436	5.55
日本製鉄株式会社	5,313	5.43
株式会社三菱UFJ銀行	4,805	4.91
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	4,319	4.41
三井住友海上火災保険株式会社	4,236	4.33
オカムラ協会の持株会	3,717	3.80
株式会社横浜銀行	2,853	2.91
GOVERNMENT OF NORWAY	1,962	2.00

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(2,700,019株)を控除して計算しております。

会社概要

設立	1946年7月
資本金	186億円
登記上本社	横浜市西区北幸二丁目7番18号
本社事務所	横浜市西区北幸一丁目4番1号
従業員数	3,946名

取締役及び監査役

地位	氏名	担当または主な職業
代表取締役(社長執行役員)	中村 雅行	
取締役(専務執行役員)	菊池 繁治	オフィス環境事業本部長
取締役(常務執行役員)	山木 健一	生産本部長
取締役(常務執行役員)	河野 直木	コーポレート担当
取締役(常務執行役員)	井上 健	商環境事業本部長
取締役(執行役員)	福田 栄	コーポレート担当
取締役(社外)	浅野 広視	
取締役(社外)	伊藤 裕慶	株式会社ストーン・パートナーズ社外監査役
取締役(社外)	狩野 麻里	昭和女子大学全学共通教育センター特命教授
取締役(社外)	上條 努	サッポロホールディングス㈱特別顧問
取締役(社外)	菊地 美佐子	伊聖路加国際大学常勤監事
監査役	岩田 寿一	
監査役	永井 則幸	
監査役(社外)	鈴木 祐一	弁護士
監査役(社外)	岸上 恵子	公認会計士

執行役員

地位	氏名	担当
常務執行役員	佐藤 喜一	コーポレート担当
上席執行役員	田尻 誠	物流システム事業本部長
上席執行役員	牧野 博	オフィス環境事業本部 営業本部 テレコム営業本部長
上席執行役員	酒徳 真司	商環境事業本部 リテイル・ソリューション本部長
上席執行役員	荒川 和巳	オフィス環境事業本部 マーケティング本部長
執行役員	山下 佳一	物流システム事業本部 マーケティング部長
執行役員	近藤 岳文	オフィス環境事業本部 営業本部 ライフサイエンス事業部長
執行役員	栗原 実良	生産本部 第二事業部長
執行役員	大野 嘉人	海外営業本部長
執行役員	佐藤 春徳	オフィス環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長
執行役員	有吉 真二	オフィス環境事業本部 営業本部 関西支社長
執行役員	寺西 郁	商環境事業本部 営業本部 首都圏営業本部長

株主総会資料の電子提供制度のお知らせ 招集ご通知がウェブ化されます！

2023年3月以降の株主総会（当社では2023年6月下旬の次回定時株主総会）より、これまで郵送していた株主総会資料（招集ご通知）が原則ウェブ化されます。株主の皆様は、会社からご案内するウェブサイトにはアクセスすることで、株主総会資料の全文をご確認いただけます。

今まで



これから
2023年3月以降の
株主総会より



株主総会資料の電子提供に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電子提供制度専用ダイヤル ☎0120-696-505

（受付時間：土・日・祝日を除く平日9：00～17：00）本制度について詳しくはこちら <https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>



- インターネットの利用が困難な方へ 全文の招集通知（インターネット開示事項を除く）の印刷物が必要な場合は、当社の株主総会基準日である3月31日までにお取引の証券会社または、株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社へ請求手続きをいただくことで書面交付請求が可能です。
- 議決権行使書・配当関係書類は今まで通りお送りします。

アンケートにご協力ください！

ご回答いただいた株主の皆様の中から抽選で100名様に
謝礼品としてQUOカード（500円分）を進呈いたします

株主の皆様からのご意見を経営に活かすとともに、今後のIR活動の充実を図るべく、同封のハガキにてアンケートを実施いたします。
ご協力お願い申し上げます。

オカムラウェブサイト IR情報ページのご案内

決算情報をはじめ、最新の事業動向をご覧ください。

<https://ir.okamura.co.jp/>



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月下旬
基準日	3月31日
公告掲載新聞	日本経済新聞
株主名簿管理人／ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
☎0120-232-711（フリーダイヤル）
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

（ご注意）株式に関する手続きのお届出先・ご照会先について

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、口座を開設された証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記、特別口座の口座管理機関の連絡先にお問い合わせください。

人を想い、場を創る。

OKAMURA

株式会社オカムラ

〒220-0004 横浜市区北幸二丁目7番18号
TEL：045-319-3401（代）

